

社会性、人間性を高め、 脳を活性化させる 独自の教育システムを導入

メデュカパス校長

田村 和香氏

もう1つの大きな特徴は、地域枠や奨学金を設けて、地域医療を志す優秀な学生を集めようという動きです。実際、近年の定員増の多くは地域枠に割り当てられています。背景には、高齢化の進行に伴って、地域医療の重要性が高まっていることがあります。今後の医学部受験生には、そうした国の施策や、社会のニーズ

も意識する必要があるでしょう。メデュカパスでは、患者さんに寄り添って治療できる、地域医療を担える医師、すなわち人間性、社会性を備えた医師になるために必要な能力を、受験生時代から高めることを教育の柱にしています。

近年の医学部入試の動向からお聞かせください。

田村 センター試験利用入試を導入する私立医学部が増加したこともあって、これまで国立専願だった受験生が私立に数多く流入しています。社会人や文系学部卒業者の医学部再チャレンジも活発化しています。本校のグループ校でも2015年度、慶應の文系学部を卒業した社会人が獨協医科大学に合格しました。こうした状況から、私立医学部はますます難化しています。

田村 最も特徴的なのが、週2回、各80分の「Input-Output方式」授業です。生徒の学力、性格などを踏まえて、4〜5人のグループを編成。生徒1人約20分、自分で選んだ問題を解説する授業です。脳科学者と対話を重ねて開発した方式で、それまであまり使用していなかった脳の部分の活性化が期待できます。たとえば、他の生徒に分かりやすく説明するためには、通り一遍の理解では不十分で、頭の中で知識を再整理して、コンパクトにアウトプットできるように準備する必要があります。知識の深化につながるわけです。また、

脳を活性化させる 「Input-Output方式」

旧両国予備校で長年にわたり、医歯系大受験指導に携わってきたベテラン講師陣が設立した少人数制予備校が「メデュカパス」。毎年、全在校生の7割が医学部に合格するという驚異的な合格率を誇っています。この実績を維持している秘訣は何なのか、教育の特色を田村和香校長にお聞きしました。



文章の書き方が上達する新聞の転記や毎日の確認テストを実施

その問題が苦手な生徒にも分かるように解説することで、コミュニケーション力も発達します。鋭い質問が飛ぶことも多く、事前に他の生徒から質問されそうなことを想定することによって、多角的な視野も養われます。様々な意味で人間性、社会性が身につくのです。

小論文やグループ討論にも役立つ新聞コラムの「転記」

—新聞のコラムの転記も義務づけられていますね。

田村 毎朝、全員が朝日新聞の「天声人語」と日本経済新聞の「春秋」を読み、興味を持ったいずれかの文章を書き写します。もちろん、小論文講座も設けていますが、1年間、転記を続けることで、文章の書き方が自然に身につく効果は絶大です。

いま社会で何が問題になっており、それに対してどのような見方があるのか、社会性も育まれます。転記を通して、社会問題への関心も高まり、興味を持った新聞記事を他の生徒に紹介したり、食堂で一緒に食事をしながら、今日のコラムで何を感じたのかを話し合ったりする姿もよく目にします。友人の考えを聞くことで協調性も養われるのです。2次試験でグループ討論を課す医学部もあり、そこでは敵対意識を出すことは厳禁で、異なる意見も尊重して、自分の意見とすり合わせる姿勢が求められます。それを日常的に高められる環境になっているわけです。

「確認テスト」で完全習得をめざす

—1日の指導の流れを教えてください。

田村 入校時にクラス分けテストを実施し、各自のレベルに合ったクラスで授業を受けます。朝9時から夜9時までメデュカパスにいることを義務づけており、強制的に勉強してもらいます。まず予習をして授業に臨み、理解が不足している部分があれば、その日のうちに先生に質問します。また、1日1科目、50分の「確認テスト」を実施。前週に習ったことを出題範囲にしています。間違えた問題はすぐに先生に指導を受け、さらに翌週の土曜日にやり直しの時

間を設けています。つまり、3週間かけて1つのテーマの完全習得をめざすわけです。それでもまだ理解が不足している場合は「Input-Output方式」授業に持ち込みます。医学部受験生の多くは、優秀なだけに、スピードを上げてどんどん知識を詰め込もうとしがちです。けれども、それでは本番入試で引き出せる知識にはなりません。完璧に自分のものにしておかなければ、入試では使えないのです。卒業生も「確認テストを核とした学習のペースを守れば、絶対合格できる」と口を揃えています。

—食堂が完備されているのも大きな特色です。

田村 私たちは、健全な生活と、規則正しい食事が、受験勉強を乗り切る上で不可欠な要素だと考えています。夕食は、メデュカパスが運営する食堂で、グループを編成し、決められた時間に30分間、談笑しながら楽しめます。こうした生活リズムの確立によって、メリハリをつけて勉強を続ける姿勢が養われます。そのため、提出物の期限などもきちんと守る生徒がほとんどです。また、寮も完備しており、メデュカパスから徒歩5分以内のところに男子寮・女子寮が別棟で用意されています。

—教材についてもご紹介ください。

田村 医学部受験指導のベテラン専任講師がオリジナルテキストを作成しています。また、グループ校である、はやぶさ、医岳舎と合同で毎年



受験生や高校の先生にも好評の対策本

新規作成している対策本は、難関医学部11校を対象に、新傾向も含めた予想問題集になっています。3校舎の講師たちが精魂を込めて半年がかりで作上げる力作です。全国の進学校に無料で配布しており、高校の先生方から「毎年、対策本の発刊を待ち望んでいる」という声が寄せられています。実際に予想問題が的中したケースも少なくありません。

—最後に、医学部受験生へのメッセージをお願いします。

田村 メデュカパスは私立医学部専門の予備校です。国立と私立では試験内容が大幅に異なるため、難関私立医学部に合格するには、それに特化した勉強が要求されます。そして、何よりも大切なのは、自分の力を信じて、こつこつと努力を重ねることです。メデュカパスはそうした生徒たちを、教職員一丸となって指導し、合格へと導きます。